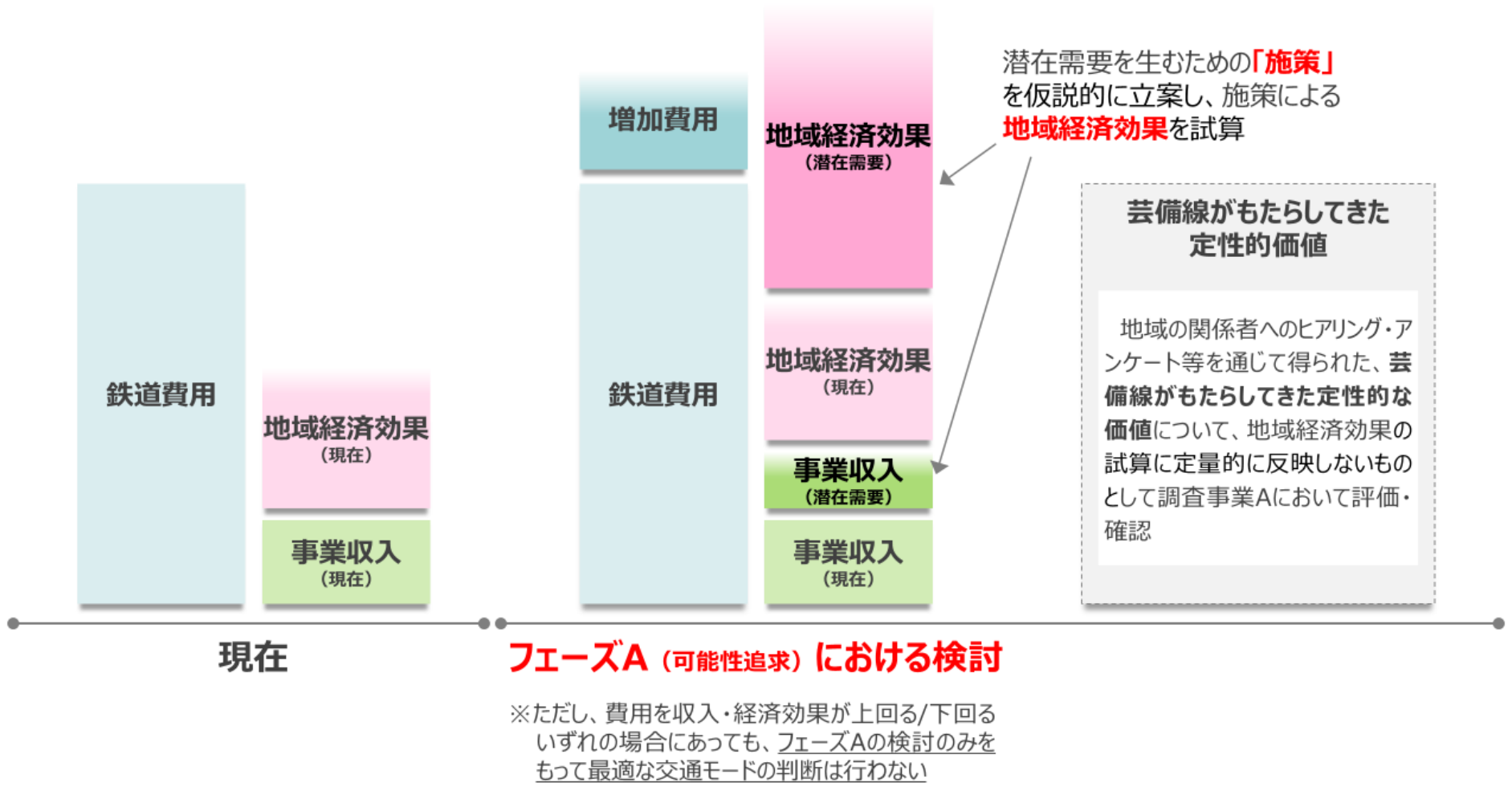


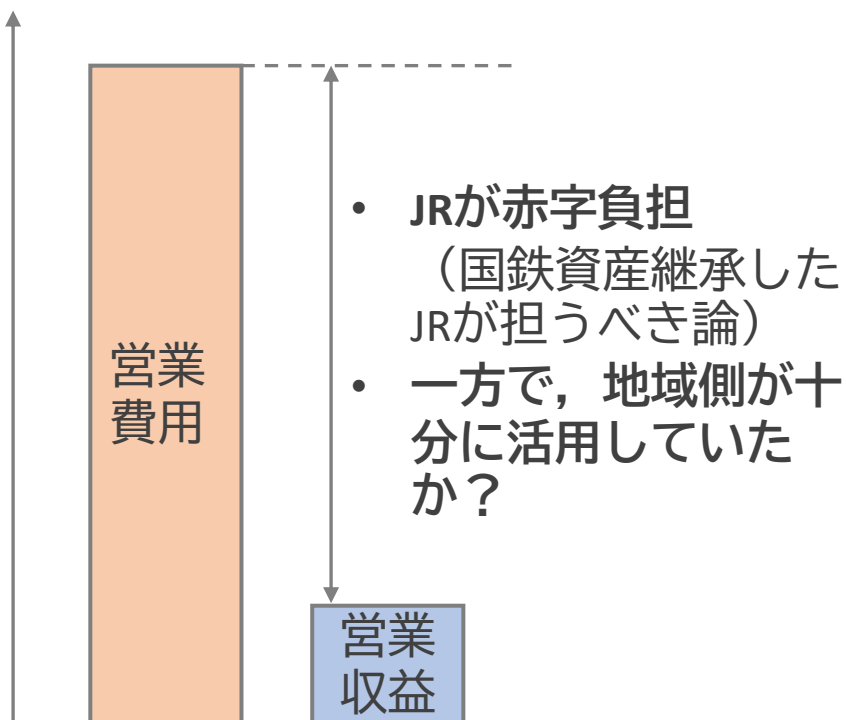
- **調査事業A**において、芸備線の多様な価値の創出や鉄道の潜在需要増加につながる「**施策**」を仮説的に立案し、「**施策**」による地域経済効果を試算
- **実証事業A**において、仮説を実証するため、「**施策**」を試行的に実施し、効果を測定



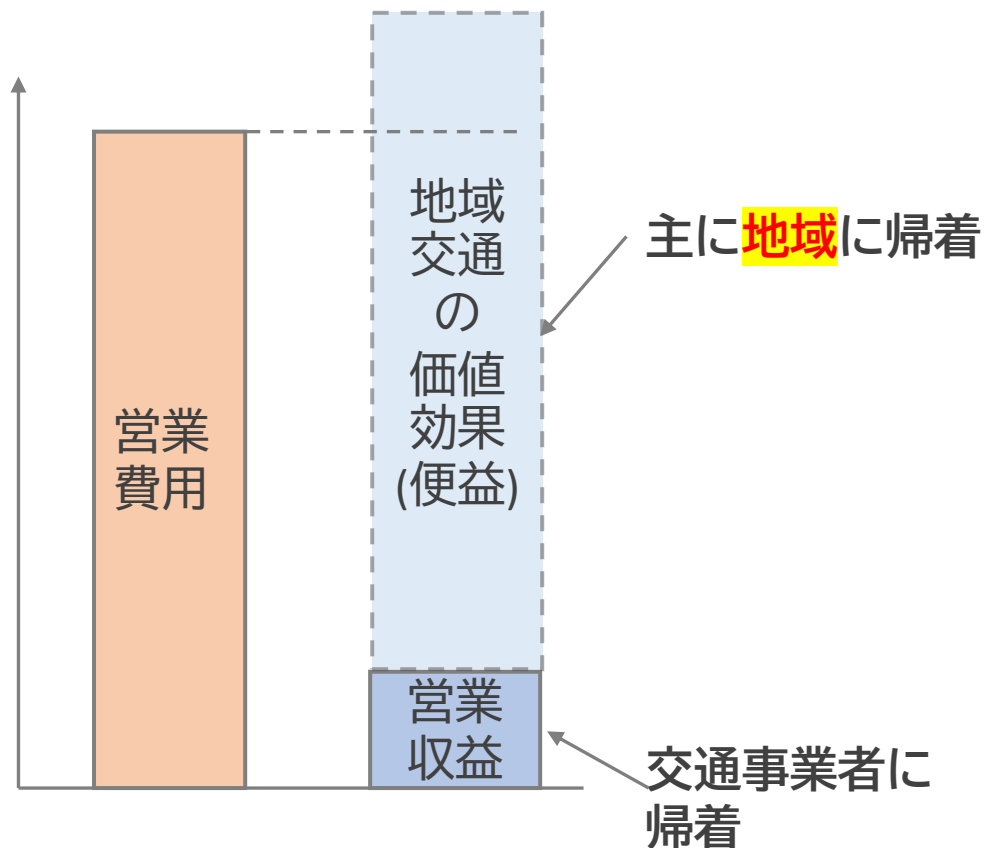
出典：R7.3.26 第3回協議会事務局説明資料

議論の視点

▼現在のローカル線の議論 (世論含む)

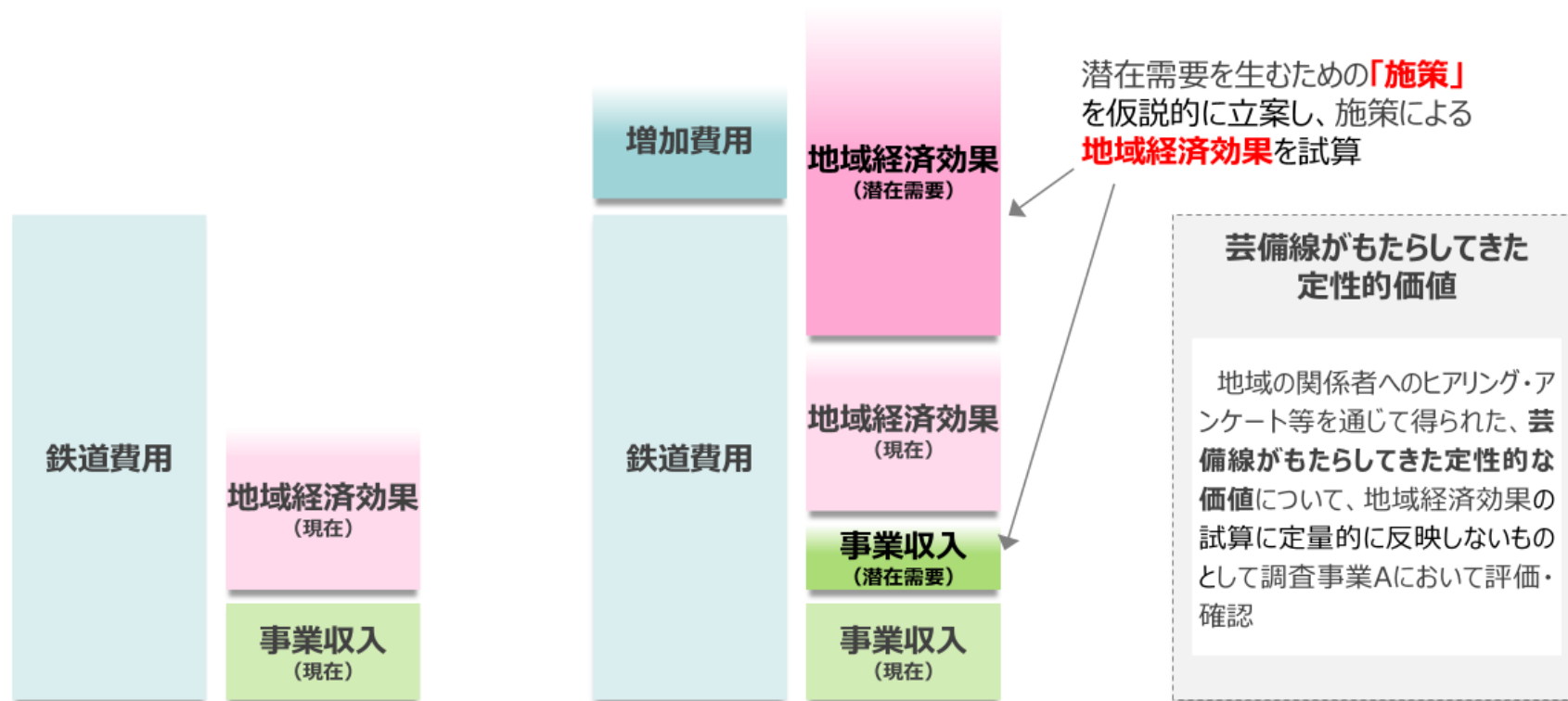


▼交通インフラの意義に基づく議論



- 従来からの運営スキームは、どこまで地域経済効果が引き出せてきたか？

- **調査事業A**において、芸備線の多様な価値の創出や鉄道の潜在需要増加につながる「**施策**」を仮説的に立案し、「**施策**」による地域経済効果を試算
- **実証事業A**において、仮説を実証するため、「**施策**」を試行的に実施し、効果を測定



- ・ 現在の鉄道事業スキーム：JRが運行，その移動に付随するもの
- ・ 「価値を最大限追求」：価値の種類，価値の高め方，引き出し方，
マネジメント体制..etc
- ・ ➡沿線”地域”にとって，どのように持続可能に引き出して，**そもそもどのようなまちづくりを目指すのか？**の議論が前提として必要